

全国協議会 ニュース

2020年9月1日発行 第337号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

コロナ緊急事態宣言解除後の ドナー登録説明会の状況・課題

全国協議会では新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の収束が見えない中で、今後のドナー登録方法について模索していくべく、コロナ前の献血併行型登録会の状況や再開状況について全国の骨髄バンクボランティア団体へアンケートを実施しました。今後の皆様の活動の参考になれば幸いです。ご協力いただきました団体の皆さま、ありがとうございました。

緊急事態宣言時の状況

4月7日に埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、及び福岡県の7都府県に、4月16日には全道府県に対し、政府から新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出されました。4月10日には日本骨髄バンクから登録会の行動指針が示され、全国の登録説明員は活動を自粛することとなりました。その間、新規ドナー登録者は急減し、本年4月～6月（3カ月間）の実績は、全国で3,217人であり、前年同期間のドナー登録者数の僅か21%、登録抹消者が新規登録者数を上回り、初めて純増数がマイナスとなってしまいました。その後、5月14日の緊急事態宣言一部解除を受け、5月18日には日本骨髄バンクから新たな行動指針が示され、緊急事態宣言が解除された県では、登録説明員の安全確保、感染拡大防止を最優先し、日本赤十字社の各血液センターの指示に従

い、活動再開を検討してほしいとの内容でした。

感染拡大防止への対策

マスクに関しては当然ですが100%、フェイスシールドの準備をするところも。日赤職員の検温の他、自宅でも検温を行っている所もあります。日赤からの指導で入場数制限を実施しているため、説明員は必要最低限の人数（原則1名）、接触時間を極力短くするため説明は短時間（10分～15分程度）。説明が終わったらボールペンや説明資料、テーブルなどをアルコールシートで消毒しています。説明員と登録希望者の間にはビニールの衝立などを設置しているところもあります。また、説明会場が室内の場合は扉を開放し、換気に努めています。備品をボランティアが準備しているところも見受けられますが、日本骨髄バンクに申し出れば費用は弁済されます。また、ソーシャルディスタンスを保つために説明を待つ登録希望者の列の整理や待合・説明のための別室の確保に苦慮しているとの声も聞かれました。

また、啓発グッズの配布の自粛要請もあり、チャンス（ドナー登録のしおり・申込書）は登録希望者本人が手に取ってもらうようにし、説明員などが触らないようにするなどの対応を行っています。

登録説明会の会場

今までは献血ルームやスーパーなどの商業施設や駅前などの他、病院や自衛隊、民間企業等でも献血併行型ドナー登録会を開催していました。一部の企業や病院では再開されていますが、イベントの再開が未知数で、若年層の登録が期待でき、登録率も高い大学・教育施設での再開も難しい中、今後のドナー登録の方法を変えていくことが必要となると考えられます。

再開後の問題点

担当となる行政（保健所）がコロナ対策の部署となっており、ドナー登録推進活動にまで手が回らない状態で調整が難しい。3密になってしまうので、献血のみとなる会場が多くなった。献血ルームでは、来場者はまず検温や手指消毒を行う事になるので動線が変わったことにより声掛けがしづらくなった。などの声が聞かれました。

コロナ後のドナー登録

献血併行型登録会・献血ルームでの活動には日赤血液センター・献血ルーム
(2面上部へ続く)

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDP(8月14日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2020年7月末現在)

	6月	7月	現在数	累計数
ドナー登録者数	1,562	2,392	527,924	833,464
患者登録者数	206	203	1,858	59,729
移植例数	81(19)	76(19)	—	24,553 (1,036)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■7月の区別ドナー登録者数

献血ルーム/612人、献血併行型集団登録会/1,726人、集団登録会/0人、その他/54人

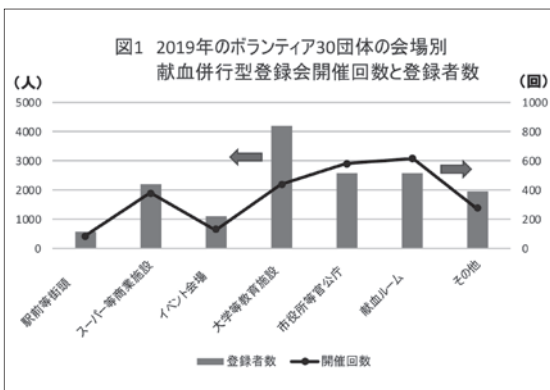
■7月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,908人/20代 82,408人/30代 137,896人
40代 223,368人/50代 80,334人

■7月の20歳未満の登録者 198人

■7月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：991件(国内ドナー→国内患者)

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。



(1面からの続き)

ム担当者との今まで以上の協働が必要となり、行政との相談・連携も今まで以上に大切です。

しかし、登録説明員が所属するボランティア団体が折衝するだけでは解決できない問題も沢山あります。献血併行型登録会・献血ルームでの登録会の開催方法について日本骨髄バンクと日本赤十字社でガイドラインを作成し、全国の説明員に示し

ていただく。また、企業や教育施設での登録会再開について国や県から後押しをしてもらえよう働きかけが必要などの意見も出ました。

説明員は登録会で新型コロナウイルスに感染し、働けなく

なっても保証がない中、ドナーを待っている患者さんの為に登録者を増やそうと努力されています。しかし感染する・させるリスクを背負えるものでもありません。

先日、国・日本骨髄バンク・日赤に要望いたしました(要望書の内容は全国協議会ニュース 336号に掲載)、登録に際し、接触をしなくても済むドナー登録方法=オンラインでの登録・

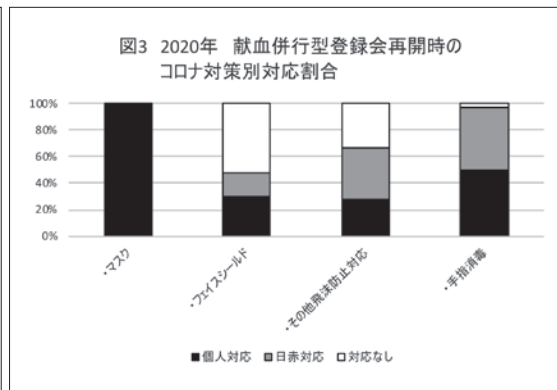
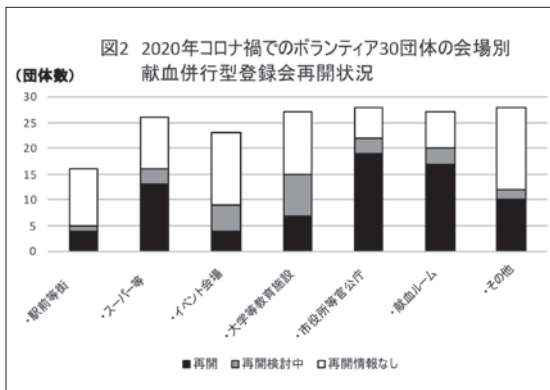
HLA型検査の検体採取に「口腔粘膜のスワブ採取」の導入を急ぐことが必要であると今回のアンケートで改めて示されました。

アンケート期間・回答団体数

アンケート回答期間

7月22日～8月12日

回答30団体(回答のない項目・複数回答もあります)



骨髄提供を終えて



今はやり終えての達成感よりもほっとした感があります。コロナの影響を受け通常のコーディネートとはかなり違ったものとなりました。そんな私の初めての骨髄提供を振り返りたいと思います。

私が適合通知を受けたのは今年の2月中旬。ショートメールが来て初めは心構えが全くできてなくて頭が混乱していたのを覚えています。登録して25年経っていました。私も年齢も年齢なのでさすがに半ばあきらめておりました。

確認検査したのは3月上旬。確認検査ではHg(ヘモグロビン)値が献血の影響で低いので気にはなりましたがなんとかクリア。ただそこからが長かったですね。

その間、政府より緊急事態宣言が出されコーディネートも進まなくなり、何度かコーディネーターさんに問い合わせを行ってしまいました。患者さん

は待てないのでは? コーディネートは終了しているのでは? などやきもきしていましたが、そんな折6月中旬にコーディネーターさんより遂に着信が... コーディネートの進捗の連絡かと思っていましたら「骨髄提供をお願いしますでしょうか?」

かなり時間が経っていたせいか本当に晴天の霹靂となりました。

私自身初の骨髄提供! 私がバンク運動を長らくやっていたとしても実際のコーディネートは全く未知の世界でしたのが、そこから本当にばたばたと進んでいきました。

コロナの影響から地元では提供採取は不可となり隣県まで行く事になり、また当初決まっていた採取病院も実際の採取日と患者さんの移植日がかみ合わず採取病院・入院日程も再度変更となったり、術前検診も時間の変更がかかったりと本当にコーディネーターさんは大変だったろうなと思います。

そして入院まであとわずかという時期になり採取病院の看護師さんがコロナに罹ったというニュース! 慌てて夜にコーディネーターさんに連絡をとりました。結果的に院内感染ではなく全く影響はなかったのですが、結局コロナ騒動に振り回されて本当にコー

ディネーターさんは大変だったと思います。私自身も仕事のいろいろなお客様と対応するのでここでコロナにかかったらという不安で押しつぶされそうな思いを抱く日々も多くあり、ある意味特別な経験させて頂いたのかなと感じています。

ただ実際入院後は正直あつという間でした。採取日まで全く緊張もなく(普段は臆病で色々考えてしまうのですが...) 過ごせましたし、さすがに手術室に入ってから少しビビりましたが...(笑)。9時過ぎに手術室に入り病室で気がついた時は11時半。本当に腰も喉の痛みもなく非常にありがたかったです。また私の採取痕は左右1カ所ずつの合計2カ所でしたので、結果的には担当医に恵まれていたと今は思います。

しかし患者さんの状況は今も分かりませんが本当にしっかりと治って頂き社会復帰して頂きたい思いでいっぱいです。そしてコロナの影響で登録数が伸び悩んだりコーディネートが進まなかったりといろんな影響が今も出ています。はやく収束して元の状況に戻り、一人でも多く救命できるように私にできる事をまずは行っていきたくと思います。

(滋賀骨髄献血の和を広げる会 片岡智一)

骨髄移植から12年、 10回目の東京雪祭



12年前の2008年、プロスノーボーダーとして絶頂期に慢性活動性EBウイルス感染症と診断され、余命宣告されました。一時は未来が見えなくなり絶望しましたが、スノーボードで繋がった仲間やファンの方々からの応援もあり、闘病への気力を持ち直しました。

ただ、唯一の治療法の骨髄移植を受けようとした際に、骨髄ドナー提供いただける方を見つけるのにとっても苦労しました。僕は運良く約半年後にフルマッチでは無かったものの提供いただける方に出会い、骨髄移植を受けることが出来て病を克服することが出来ました。その経験からこれからの患者さんが輸血や骨髄移植を受けるスタートラインにいつでも立てる社会を創ろうと思い、献血・骨髄バンクボランティアを開始しました。ただ現場で痛烈に感じたのが次の世代に繋いでいく事の難しさでした。

当時僕も30歳を迎え10年後には立派な中年男性になる事を考えると、今から行動して10年後40歳を迎える頃には若者が自発的に発言し、行動してくれる仕組みを創ろうと考えてSNOWBANKを立ち上げました。この活動は「患者さんの命を救おう」なんて大それたものではありません。「患者さんに治療のスタートラインに立ってもらおう」を目指した活動です。

最初の活動は2011年に渋谷区代々木公園に雪を降らせて開催したSNOWBANK PAY IT FORWARD 2011です。この活動も気がつけば今年で10回目を数える活動になり、常連のボランティアさんが参加したり、2校の専門学校が授業の一環として運営を手伝ってくれる活動になりました。そ

してこの活動を通じてドナー登録した方から「適合の連絡があった」とたくさんの方からご連絡いただき、実際に提供に至った方々もいらっしゃいます。本当に嬉しい事です。これも先輩方が骨髄バンクを無かった時代に創り、苦しい時代も継続し続けてくださったおかげで、12年前に骨髄移植を受けることが出来たお陰だと思っています。そして自分に骨髄提供してくださった関東在住の50代女性へ、感謝は返せませんがそれを未来に伝え、絶やす事なく継続することがある意味自分にとっての恩返しだと思っています。

しかし、今回10回目を迎えようとしている東京雪祭 SNOWBANK PAY IT FORWARD 2020も、今回の新型コロナウイルスの影響は甚大で、毎年協力いただいている企業様もかなり厳しい状況です。ただ、この活動を絶やしてはいけないと思っています。是非、皆様のお力をお借しください。雪主(寄付)のご協力よろしくお願いたします。

(一般社団法人 SNOWBANK 代表
荒井 DAZE 善正)



雪主申し込みページ
<https://sbpif.net/yukinushi/>

基金給付を受けた方からの メッセージ

志村大輔基金
(分子標的薬・精子保存支援)

仕事復帰ができず、収入がない状態でこのようなご支援をしていただいたことに、感謝しております。

移植から1年が経ちましたが、幸いなことに経過は良く少しずつ日常を取り戻しております。

治療はまだまだ続くため、貴会にお世話になることがあると思いますが、今後とも何卒宜しくお願申し上げます。

順調に社会復帰できた際には、貴会に御返しさせていただこうと思います。

(関東地方在住 患者さん)

グリーンリボンランニング フェスティバル 2020 は 開催中止に

例年体育の日(10月の第2月曜日・祝日)に開催され、皆様にご参加を呼び掛けていた「グリーンリボンランニングフェスティバル」は、今年からスポーツの日に名称が変わった10月12日(祝日)に開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

【開催日時】

毎月第4土曜日 6:00~20:00(7回)
*天候等の影響により日程変更あるいは中止になることがあります。

【日程】

9月26日、10月24日、11月28日、
12月26日、1月23日、2月27日、
3月27日

【参加費】 無料

【参加定員】

定員はありませんので、開催日時に3.9kmをONE TOKYOアプリで記録するだけで参加できます。

【参加方法】

ONE TOKYOアプリを使えば全国どこからでも参加可能です。アプリのダウンロード方法など詳細については以下を参照ください。

<https://www.marathon.tokyo/charity/thankyou-program/>

東京マラソン 2021 チャリティ公式ウェブサイト
<https://www.marathon.tokyo/charity/>
~全国骨髄バンク推進連絡協議会は、
東京マラソン 2021 チャリティ事業の寄付先団体です~

CHARITY TOKYO MARATHON 2021

「Run with Heart 3.9km バーチャルラン」開催のお知らせ

東京マラソン 2021 チャリティでは、チャリティプログラムの一環として、毎月第4土曜日(予定)に、みんなのハートをつなぐ3.9kmバーチャルランイベント「Run with Heart 3.9kmバーチャルラン(略称:RW♥3.9km)」を開催します。

●ランニング、ジョギング、ウォーキングなど走るペースはマイペースでOK!

●参加ランナーの中で東京マラソン 2021 チャリティに寄付していただいた方の中から、抽選でオリジナルクリアファイルをプレゼント!

♥♥♥当協議会への寄付のご支援を
お待ちしております♥♥♥

各地のたより
各地のたよりを写真添えてお寄せください。

新潟

藤田加茂市長を表敬訪問



左から：高野由美子さん、松岡一成さん、藤田明美加茂市長、高野豊さん、五十嵐裕幸副市長

8月5日(水)、当会3人で藤田明美加茂市長に骨髓バンクの理解推進と、ドナーへの支援拡充のお願いに行きました。

加茂市には平成23年に全国に先駆けてドナー助成制度を導入していただきました。その後、全国に広まりドナーが動める企業にも支援をするという事に衝撃を受け、是非、加茂市でもお願いできないか気軽な感じで「市長へのお願い」として市長とお話したいと申し出た所、表敬訪問することができました。

藤田市長は、とても真剣に話を聞いてくださり、私たちに色々質問をしてくださいました。今の骨髓バンクの現状、新潟県の現状など話をさせていただきました。藤田市長にお願い文書を持って行ったのですが、3つのお願い全て確約してくださいました。①主要公共施設等にACジャパンポスター掲示のお願い(今回、アルビレックス新潟の早川史哉選手が起用されていて、新潟県として応援したい)。②社員が骨髓提供する事業所に助成のお願い(最近は、ドナーと事業所をセットにした助成制度を設ける自治体が多い)。③松岡一成さんの経験を元に、小、中学校に命の授業(講演)を開催して欲しい(この日同席した、当会会員の松岡さんは、2015年に急性骨髄性白血病を発症し、回復したものの再発し2017年に骨髓移植を受け回復。今は、三条市の地域おこし協力隊として新潟県内初の3人制バスケットボールのプロチーム、三条ビーターズのキャプテンとして活躍中)。

以上3つのお願いでしたが、全てや

りますと市長自ら断言してくださいました。コロナウイルスで自粛の為、asagao 患者家族会が中止、ドナー登録会も中止でほとんど活動ができない中、市長に面談できて本当に良かったです。大きな成果でした。

(骨髓バンク命のアサガオにいがた 高野由美子)

千葉

千葉の会、全国協議会と共に歩み設立30周年

千葉骨髓バンク推進連絡会(千葉の会)は1991年2月24日に設立され、今年度設立30周年を迎えます。設立に当たっては、埼玉骨髓バンク推進連絡会から多くのご支援を受けたと聞いています。設立後は毎月1回千葉大学医学部のカンファレンスルームで定例会を開催していました。同年5月18日に第1回総会を開き、正式に役員を決め、規約を制定し、会を正式に発足しています。総会の議事録をみると会員数は34名、会長君塚甚一氏、副会長円東克典氏、事務局小松薫氏とありました。当時の会員で現在会に残っているのは円東さんだけです。

当時、日本には公的骨髓バンクがなかったため、設立を目的に全国のボランティア団体(13団体)が前年の90年6月24日に全国骨髓バンク推進連絡協議会(全国協議会)を立ち上げました。千葉の会は91年6月9日に加盟し、他団体と共に「公的骨髓バンク早期実現を求める請願書」署名(衆参両院議長宛48,000名)を集め、同年9月27日に厚生省に提出しました。

一方、千葉の会は同年茂原(8月18日)、松戸(11月17日)で「骨髓バ

ンクシンポジウム」を開催し、講演会「血液疾患と骨髄移植について」、患者・家族からの訴え、ドナー(血縁骨髄提供)体験談を行い、公的骨髓バンクの設立を訴えました。私は、円東さんに声を掛けられ茂原のシンポジウムに参加したことがきっかけで同年8月に千葉の会の会員になりました。と言うことで、会の設立から5カ月間の活動については、資料で知るのみです。

私は翌92年5月9日の第2回総会で副会長に、そして95年4月8日の第5回総会で会長に就任して、以降現在まで会長を務めています。

千葉の会、全国のボランティア団体、全国協議会の努力が実り、91年12月18日に財団法人骨髄移植推進財団(財団、現日本骨髓バンク)が設立されました。これで会発足時の目的は達成されたのですが、以後は会の目的を「財団が順調にスタートできるように支援する」ことに変え、今現在は「白血病をはじめとする血液疾患の患者さんを救うため、ドナー登録の推進や、ドナーの環境整備改善活動等を行い、素晴らしい骨髓バンクを築くための活動を行う」ことを目的に活動を継続しています。

千葉の会は、全国協議会設立以降、運営委員に小松、円東、星野、木村、山本順の各氏を、理事に木村、遠山、溝口、野平、荒井、野澤の各氏と梅田の多い時には年3人を、事務局員に木村、山本順、鈴木(黒川)の各氏を、そしてフリーダイヤル相談員には毎年3~5名を派遣してきました。今後も全国の仲間と力を合わせて全国協議会を支えて参りますので、宜しくお願いします。

(千葉の会会長 梅田正造)

心からのご寄付に感謝申し上げます ●7月21日~8月20日(敬称略)

●一般	中野 慶子	現金	30,000円	●志村大輔患者支援基金	
株式会社エイブラフト	塩谷 圭	現金	1,000円	津田 敦子	現金 1,000円
現金	匿名	現金	40,000円	●募金箱	
株式会社ゼロナビ	匿名	現金	3,000円	株式会社クスリのアオキ	現金 870,639円
現金	●白血病患者支援基金			株式会社マルト商事	現金 61,930円
中野 義樹	福原 卓也	現金	3,000円	株式会社サカタのタネ	現金 250,000円
岩見 実	匿名	現金	10,056円	●つながる募金	
鎌田 政雄	●佐藤さち子基金				
国枝医院 竹中武弘	公益財団法人				
現金	大原記念倉敷中央医療機構				
141円					
飛田 行康		現金	4,399円		
現金					
10,000円					

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754 普通 5666655

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髓バンク推進連絡協議会